



蒲刈中学校区小中一貫教育だより



令和6年3月発行

蒲刈中学校区学校教育目標



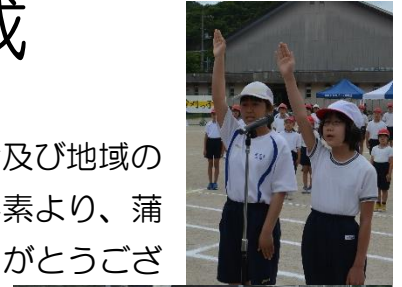
未来を拓く児童生徒の育成

寒さが緩みはじめ、本格的な春の訪れを感じる今日この頃、保護者及び地域の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素より、蒲刈小学校・蒲刈中学校の教育活動に、ご理解・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。



います。

さて、蒲刈中学校区では、小中学校の教職員が義務教育9年間で児童生徒を育てるという意識を共有し、児童生徒のよりよい成長・発達を目指して指導方法の工夫改善に努



めております。本年度は、新型コロナウイルス感染症が感染症第5類に移行したことに伴い、コロナ禍以前の活動が戻り、児童生徒は、自然豊かで人の営みが穏やかな環境の中、日々落ち着いて学習に取り組んでいます。

しかしながら、私たちを取り巻く社会は、変化が非常に激しく、多様で複雑な価値観が存在します。現在の児童生徒が社会人になる頃には、社会構造や雇用環境は大きく変化し、職業の在り方も現在とは様変わりする、とされています。



「未来を拓く児童生徒の育成」を学校教育目標に掲げる蒲刈小・中学校は、このような未来をたくましく生き、自らの力で未来を拓くことができる児童生徒の育成を目指しています。変化が激しい未来だからこそ、社会



人になってからも「自ら学び続ける力」が必要です。そのために実際の社会や生活で学んだことを生きて働かせながら、未知の状況にも対応できる力を育てて行かなければなりません。自分から情報を集め、自分で考え、仲間とともに課題に取り組み、世の中に新しい価値を生み出していくような人材を育てたいと考え、様々なことにチャレンジする経験の場を設けていく教育活動を日々行っています。

「自らが学び続ける力」を身に付けるために、**積極的にチャレンジする** → **成果が出る** → **自信がつく** → **更にチャレンジする** → …というサイクルを今後も継続して活動します。

蒲刈小・中学校では、来年度も「未来を拓く児童生徒の育成」を学校教育目標に掲げ、様々な教育活動を推進してまいりますので、これからも、ご協力、ご支援をお願い申し上げます。

1年間を振り返って



指導案をもとに授業を実施



2月19日（月）、今年度最後の小中合同研修会を行いました。
合同研修会は定期的開催し、小中で実施する教育活動について振り返り、成果と課題を明確にし、次の活動につないでいます。

今年度は「伸ばす学力部会」と「育む心部会」の2つの部会が、それぞれの研究内容を実践し、次のように成果と課題を整理しました。

①「伸ばす学力部会」について		
研究内容	具体的な取組	成果（○）と課題（●）
ア 授業改善による学力向上（「課題発見・解決学習」や「教えて考えさせる授業」の充実）	<ul style="list-style-type: none"> 自力解決の時間を取り、誤答を提示して説明させたり、ペアやグループでの学び合いを仕組み、自分の言葉で説明させたりする場を設定した。 研究授業や授業交流週間などを設けて研修を実施した。など 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを説明できる力が身に付いてきて、発表することも多くなった。 教科の用語を活用して説明したり、語彙の広がりが見られたりするようになってきた。 ●学力の定着については、成果も見られるが課題の克服のため、学習環境を整える必要がある。
イ 自分の思いや考えを自己表現することができる授業等	<ul style="list-style-type: none"> 学年発表や学期の振り返りなど授業以外の「発表の場」の設定を継続した。 クラスでのスピーチ（1分スピーチ、新聞スピーチなど）、「ワークシート通信」などを定期的実施した。など 	<ul style="list-style-type: none"> 大勢の前で臆せず自己表現できるようになった。また、発表に対して感想を言う場を継続していく。 記事の内容をもとにして、自分の考えも加えて発表することができた。 ●相手（聞き手）意識をもって発表する力には個人差もあり、場に応じた発言などステップアップを図りながら指導を工夫した取組が必要である。

②「育む心部会」について		
研究内容	具体的な取組	成果（○）と課題（●）
ア 「ふるさと学習」の充実	<ul style="list-style-type: none"> 各学年で、町探検、ふるさと自慢見つけ、朝鮮通信使についてなど、全学年での三之瀬御本陣芸術館・白崎園見学。 「未来を拓く100のであい」を実施した。など 	<ul style="list-style-type: none"> ふるさとの良さを記述することができた。身近な町に対する知識が深まり、愛着をもって接することができるようになった。 ゲストティーチャーを招喚し地元での活躍を聞き、新たな発見や気づきなどしっかり振り返り、郷土愛を育むことができた。 ●今後もふるさとへの思いを継続させる。しかし、地域行事に参加する機会が少なかったため今後増やしていく。
イ 自己肯定感を向上させる異校種・異学年交流の充実	<ul style="list-style-type: none"> 小中合同朝会の実施。 合同遠足、合同運動会などを実施し、小学校と中学校が感想の交流をし、掲示した。 学習発表会前に小・中互いに鑑賞、メッセージの相互交換を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒が互いに認め合うことで、達成感を味わうことができた。他者から褒められたり、認められたり感想を伝え合う取組を通して、学習発表会後のアンケートに全員肯定的だった。 異学年交流では、上級生が下級生に教える活動など意欲的に取り組み、自分の役割を果たすことができた。自己肯定感が向上した生徒もいる。 ●自己肯定感が低い児童生徒が一定数いる。生徒同士の教え合いにも限界があり、専門的な指導など取組の改善・工夫が必要がある。また、自己肯定感について、更に理解を深め、今後の活動をより効果的にする必要がある。

呉市は、中学校区の小・中学校で「目指す児童生徒像」を共有し、9年間の見通しの中で様々な教育活動を組織的・計画的に行う小中一貫教育を基盤としています。本中学校区においても、この考えを踏まえ、今年度の成果と課題を整理し、来年度の活動につないでまいります。

今後ともご理解・ご協力を賜りますよう何卒よろしくお願いいたします。